

会 議 議 事 録 (抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第2回 学校関係者評価委員会
開催日時	令和5年12月1日(金) 18時00分～20時00分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階 テラホール
参加者	外 部 委 員：9名(委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者：4名
配布資料	① 会次第 ② 参加委員名簿 ③ 前回議事録 ④ 令和5年度第2回学校関係者評価委員会 PP 資料
会議録	<p>1. 開会の辞・事務局紹介 【井坂副校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 開会宣言</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 【白井校長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】 校長挨拶</p> <p>3. 委員紹介 【井坂副校長】 各委員の紹介</p> <p>4. 議長の選出 【井坂副校長】 会則に則り、渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)を議長に選出 【渡邊委員長】 議長挨拶</p> <p>5. 開催要件の確認 【井坂副校長】 開催要件の確認(総委員の過半数の出席(委員16名、出席9名、委任状6名))</p> <p>6. 議事 (1)第一号議案:2023(令和5)年度 第1回学校関係者評価委員会議事録確認 【渡邊委員長】 事務局へ前回議事録の確認指示 【井坂副校長】 前回議事録説明 【渡邊委員長】 前回議事録内容の齟齬等を確認 【全委員】 全員一致で承認</p> <p>(2)第二号議案:2023(令和5)年度事業計画進捗状況報告 【渡邊委員長】 事務局へ2023年度の事業計画進捗状況の報告を指示 【井坂副校長】 報告者白井校長を指名 【白井校長】 【2023(令和5)年度事業計画進捗報告】 «はじめに～専門学校を取り巻く状況・2020年の教育改革とその影響～» 「高校教育の改革」 「大学入学者選抜の改革(大学入学共通テストの導入)」 「大学教育の改革」 「専門職大学制度」 「高等教育の無償化」 「リカレント教育の充実(リスキリング)」 「大学全入時代の到来(今年度入試の実態・推薦・総合型選抜の増加)～日本経済新聞より～」</p>

≪ 基本方針 ≫

1) 学生募集に関する報告「共感される学校づくり」

1)-1 学生募集に関する報告

2024年度 310名を獲得目標

出願数:302名(11/24 現在)

コロナ後の留学生増、日本人は大学の定員緩和の影響を受け減少

⇒見学出願率向上(OCの見直し・質向上)

⇒発信強化(RJP・教学マネジメント・SEO対策等広報連携)

⇒高専連携強化(文科省委託授業を含む) 留学生オンラインコミュニティ運営

1)-2「高専連携に関する報告『共感される学校づくり』」

⇒高専連携(教育連携)強化

・都立練馬工科高校 ⇒ 体験I授業・インターンシップ(3日間)・文科事業

・都立蔵前工科高校 ⇒ 情報授業(1年生全クラス)・文科事業

・私立堀越高等学校 ⇒ 探求授業・文科事業

・都立六郷工科高校 ⇒ 文科事業

・都立多摩工業高校 ⇒ 文科事業

・埼玉県立新座総合科学高校 ⇒ 情報授業・インターンシップ(6日間)

(10/16 教育連携協定締結)

・理科担当教員向けセミナーの実施 ⇒ 都立農芸高校等の生物授業へ

・都立中野工科高校 ⇒ 高校教員研修 ⇒ 8/22・23 バイオ環境系で開催

・県立神奈川工業高等学校 ⇒ 日本初、『次世代建築リーダー育成コンソーシアム』を設立

7/13、10/31、12/13 連携授業実施(予定)

⇒高校教員向けセミナーの実施

環境テクノロジー科・バイオテクノロジー科 2023年8月22日実施

⇒高専連携(教育連帯)の教科

次世代建築リーダー教育コンソーシアムの設類

酸g九連携による7年間(高校3年・専門4年)の人材育成プログラムを提供

神奈川工業高等学校、東京テクニカルカレッジ建築監督科、清水建設(株)

・第1回連携授業 清水建設(株)本社にて神奈川県工業高校建設科1年80名を対象(7/13)

・第2回連携授業 神奈川工業高校(10/31)

・第3回連携授業 銀座エリア・豊洲エリアの建築見学 清水建設(株)案内(12/13)

2) 教育指標に関する報告『自己改善できる学校づくり』

2)-1 教育指針に関する報告報告

①目標退学率5%以内抑制

学生意欲の向上 ⇒ 学習目標(DP、わかる目標、できる目標)の周知

学生フォローの強化(補習時間の確保、補講方法の見直し等)

問題早期発見・共有・対応(指導記録・科内MTG・週別経営会議等)

⇒2023年(R05)年度 11/24 現在

・年間出席率:94.3%

・課題発生率:9.9%

・課題残率 :2.9%

・退学者数 :14名

2)-2 授業の問題発見・改善手法に関する報告

2023重点課題 2:フォローアップ体制の再構築 ⇒ 効果的な補習方法を探る

①フォローアップ体制の再構築

⇒スタジオアワー等補習時間の確保

⇒上位槽への対応(paizaラーニング等の教材導入

・情報処理・IoT+AI科のプログラミング自習にpaizaラーニング導入

・夏休み休暇中 全科学生対象 数学の補習(全12コマ+効果測定)

②チェックバック手法(資格取得含む)の開発

⇒履修判定試験結果分析からカリキュラムの問題点発見

問題点を解決するための改正提案→コマシラバス改善

(2・4期、1教員1教科のチェックバック実施)

⇒S-P表分析の実施(実証実験含む)

資格対策の結果分析にS-P表を活用・改善を試みる

・施工管理技術者試験、インテリアコーディネーター試験の対策に導入

2)-3 学習成果の見える化に関する報告 秋季成果展示

①建築系学科展示 企業・保護者等外部 来場者67名(10/20・21 テラホール)

②ゲームプログラミング科ゲーム大会 卒業生70名来校(10/22 701教室)

2)-4 リアルジョブプロジェクト

- ①2022年度報告
- 建築系 鉄筋教材開発、ダイワハウスパーキング企画課題、共用部のリノベーション、学生寮モデルルームの提案、建築調査(国立新美術館)
- 情報系 防犯システム開発、翻訳機開発(英語→日本語)、自動撮影システム開発、吉祥寺ハロウィンフェスタラリー動画作成・Webサイト作成、金曜ロード ショーツイート分析
 多人数接続ネットワークゲーム制作、東中野GO制作(東中野にモンスター出現)
- バイオ環境系
 花壇制作、きのこ栽培キット、微生物アートの作成、柏の宮公園 環境教育絵本製作
 柏の宮公園 井戸水の鉄分除去
- ②2023年度取り組み
- 建築監督科 RCラーメン構造の鉄筋模型作成、OC用教材作成
 建築家 校内共用部への提案、知識・技術の研究、調査と提案
 インテリア科 男子学生寮の1室(モデルルーム)をリノベーション
 情報処理科 ラズベリーパイによりIoTコンテンツの開発
 IoT+AI科 ヒーローズブリークコンテンツの応募、もくほりねずみ出展
 DS+AI科 データサイエンス学習者の意識調査、生成系AIツールの性能検証
 ゲームPG科 Windows ゲーム作成、スマートフォンゲーム開発、ネットワークゲーム開発
 Web 動画クリエイター科 中野うさご飯カレンダー壁紙作成、殖産ベスト社 販促物制作
 吉祥寺ハロウィンポスター柵瀬
 バイオテクノロジー科 食品係(醗酵食品開発、完全栄養食品ミドリムシ)、理科実験班
 ものづくり(アロマキャンドル)植物系(花壇、アクアポニックス)
 環境テクノロジー科 善福寺川の水質保全、竹林問題、シーケンサ体験授業提案
 東京都の毒性植物調査、SDGsの取組事例、ピオトープ計画・施工

2)-5 学生支援等に関する報告

- ①高等教育の無償化 2023年度:37名(7.7%)受給 2022年度:53名(9.1%)
- ②リカレント教育の充実
 ・教育訓練給付金(専門実践訓練)の継続
 ・専門人材育成訓練制度の受け入れ継続
 2024年度 Web 動画クリエイター科、バイオテクノロジー科、環境テクノロジー科 各定員10名
 新規 インテリア科 10名で申請中
- ③建築インテリア海外研修を再開 バルセロナ4泊7日計画中

2)-6 就職活動に関する報告

- ①早期内定(8月末内定91%)現実と共に 優良企業へ内定を確保
 ②ディプロマポリシー達成のエビデンスとしての内定を獲得

3)「DXをわくわくさせる学校作り」に関する報告

- 3)-1 学びの満喫 “拡充プロジェクト”
 ⇒ IT 系新科2科設立、現在2年次カリキュラムおよび就職先企業開拓を開始
- 3)-2 学びの満喫 “未来化プロジェクト”
 ⇒ 科毎に各分野における今後の学びの在り方に関し調査・研究を行う
 ⇒ 10/26の専門人材未来会議にてWG 毎の中間発表を行う
- 3)-3 学びの満喫 “深掘プロジェクト”
 ⇒ 企業連携等探求型教育事業の開発
 ⇒ 分野横断型技術者教育事業の開発

■2022年度 企業ヒアリング実施企業一覧

- 6/10 (株)フォーラムエイト 執行役員訪問
 6/21 清水建設(株) 東京支店人事部部長訪問
 7/22 (株)テクノプロ 採用本部 本部長訪問
 9/21 清水建設(株) 生産技術本部 部長(BIM 人材担当)訪問
 10/5 NEC ソリューションイノベータ(株) 担当者来校
 12/6 (株)スタージェン 代表取締役社長・事業部長来校

■2023年度 企業ヒアリング実施企業一覧

- 6/7 (株)AGC 人事総務統括部 部長訪問
 6/29 富士フイルムワコーケミカル(株) コーポレート部長訪問
 8/1 (株)熊谷組 管理本部人事総務部 副部長訪問
 8/8 (株)サイバーエージェント 技術人事部孫津採用担当来校
 8/8 (株)アイダ設計 人事部 部長訪問
 9/8 水ing(株) ガバナンス推進本部総人事統括部 人事部長来校
 9/13 (株)安藤・間 経営戦略本部キャリア開発部 一柳採用グループ長訪問
 9/13 長谷工コーポレーション(株) 人材開発部長来校
 9/13 長谷工リフォーム(株) 人事採用責任者 執行役員来校
 9/14 清水建設(株) 人事部 主席マネージャー来校
 9/22 西松建設(株) 人事部担当訪問

9/25 富士通(株) Employee Success 本部 シニアマネージャーオンライン
9/28 (株)カネカ 人事部採用育成グループ 主任訪問
10/27 (株)ニコン・トリンプル COO 来校

3)-4 学びの満喫“発信プロジェクト”

- ⇒ 専門人材未来会議の継続開催
- ⇒ 企業連携・学科横断研究機関「TTC ラボ」の開設
- ⇒ 企業連携・学科横断ラーニングコモンズ「TTC プラザ」の開設

(3)第三号議案:審議(2023 年度事業計画進捗状況報告に関する評価および意見交換)

【渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)】

事務局へ審議の趣旨説明の指示

以下、各委員の意見及び学校側の答弁の概要

【藤沼委員(フォーネスライフ株式会社)】

「フォールバックやフォローアップの体制、チェックバックの手法など、しっかりやられてるなというのが正直な感想です。また、この関係者評価委員会や教育課編成委員会を数年させてもらっていて、先生方は常に学生さんのことを考えて毎日努力されいると思っています。そこで、先生方の労務について、色々な働き方の改革がある中で、先生方の労務をしっかり管理し、先生たちが働きやすくすることによって、さらに良い学校運営、学校経営に持っていかせてもらえると嬉しいなと思います。しかし、労務管理って非常に難しく、ヒアリングをするために何かシステムを入れるだけでも、それはそれで負担になる可能性もあります。そのため、それらを含め、考えた上で、先生方が働きやすいように、それが学生さんたちにプラスになるような運営方法をしていただければと思います。」

【白井校長】

「ありがとうございます。先生方の 残業平均時間は 1 人 5 時間ぐらいです。また日曜日オープンキャンパスなどの出勤があるのですが、それは振替休日を取ることで労務管理をおこなっています。ただ、新学科設立時にはカリキュラム開発で、遅くまで残ってしまったことなどはありますが、多くの先生方は、あまり残業はされていない状況です。また先生方が非常に頑張っているのですが、学生の履修状況は悪くなってしまうなど、シートカルテの運営も少し改善が必要ではないかと思っています。」

【楡井委員(建築監督科保護者)】

「IoT+AI 科の動画など、学生が思いついたことをすぐ形にできることや、バイオテクノロジー科の授業の中でのコロニーをカウントするといったものも AI でできないかなど、科が横繋がりに共有してできていることが、すごく素晴らしいと思いました。またそれらが学生のワクワクに繋がって、探求心に繋がって、意欲に繋がるのではないかと思います。これからも、このような学生の声をうまく引き出して、子供たちが頑張って勉強して行けるようにご指導・ご支援いただけたらと思います。」

【白井校長】

「ありがとうございます。知識や技術をしっかり身につけることが重要だと思います。技術、知識がないのにこのような作品は作れないと思います。毎日の授業の中で、分かったことと、わからなかったことを授業シートやカルテを使って整理していき、ここがわからないんだと理解することにより学びに繋ぐことができていると思っています。また IoT+AI 科の動画のように、何かを作ることで、自分が得た知識や技術をアウトプットでき、達成感を得られ、またそれと同時に、現在の自分に足りないものがわかり、これらを克服しなければならないといった課題感も得られると思います。ありがとうございました。」

【中島委員(Web 動画クリエイター科保護者)】

「リアルジョブプロジェクトは、学ぶだけではなく、実際の企業とコラボレーションすることや、商店街の催しを積極的に参加することにより、学生たちが直接、仕事を見て、就職する企業選びをする上でも有用な授業だと感じています。この RJP に採用されるプロジェクトに関して質問です。プロジェクトを選ぶ基準やどのように選ばれているかお聞かせいただければと思います。また、第1回の委員会の時に、地方の学校との連携を、ぜひ進めていただきたいというお話がさせていただきましたが、実際のところ地方からのその連携の協力を望まれている学校があるのか、また働きかけをおこなっているかなどお聞きかせいただければと思います。」

【白井校長】

「プロジェクトに関しては、いろんなケースがあると思います。まずは全員で 1 つのプロジェクトを行う時もあり、インテリア科では学生寮のマンションのリノベーションを 1 年生、2 年生 6 名チームでおこない、コンペティションやって、1 等賞になったら本物の部屋作れるといったプロジェクトがあります。またウェブ動画クリエイター科は、ムンロードという商店街の秋祭りの配信を有志でおこなったりしています。基本的には教員がプロジェクトを与えるのではなく、自分たちがディスカッションを行い、このような企画を行いたいといった自主的にプロジェクトを進めています。また地方との連携は、静岡の中学生が修学旅行で来たり、いわき工業高校の方から DS+AI 科と何かコラボレーションができないかといった案をいただきました。キャリアマップ(専門学校求人サイト)のクラウドの仕組みについて、山口県の YIC 情報ビジネス専門学校さんや他のいくつかの専門学校と弊校の情報処理科が選ばれて、どのウェブサイトの仕組みが良いか悪いかの評価をおこない、どの学校が鋭い評価を

するかといったコンクールに参加しました。」

【小川事務長(専門学校東京テクニカルカレッジ)】

「プロジェクトの選定方法に関しましては、様々なパターンがあります。まず1つ目としては、近隣からのご提案や相談があり、学校でこんなことやってくれないか、店のホームページ作ってくれないかといった相談や、中野区などから提案をいただいて、それをプロジェクトにするパターンがあります。またインテリア科の学生寮のリノベーションや Web 動画クリエイター科の知覧茶のポスターコンペティションに参加するなど小山学園企画部などが声掛けを行い起こしたプロジェクトです。最終的には校長の判断によって進める、進めないなどの判断を行い、プロジェクトを選定しています。」

【中山委員(有限会社イプシロン、東京商工会議所)】

「求人票にも「DX 担当募集」といった形で募集があるのですが、DX 担当者だけではなく昔ながらの ITG や、古い形でのネットワークの技術者、サーバー担当者などの人材が、全体的に足りておりません。その中で新たな若い働き手を育成し輩出している御校は素晴らしい学校であるといつも拝見しております。また他分野を学ばれ、ある程度年齢の高い専門人材育成訓練生の方は、クリエイティビティやオリジナリティを求められるだけの業務に就職することは、若い新卒世代に比べると大変ではないかと思っております。そこでクリエイティビティな業務だけではなく、公共性を求めてくるユニバーサルデザインのような、プラスアルファの技術を追加えられることでクリエイティビティな企業を目指される方も、また別に、公共の仕事を目指される方も出てきて、幅広い分野にも就職できるのではないかと思います。世の中のニーズの中で、まだ目が行き届いてない社会的なニーズも、他にもあると思います。幅広いニーズにマッチする人材を育成していただけると嬉しいと感じております。」

【白井校長】

ありがとうございました。中島さまのおっしゃる通りだと思います。世の中の動きを見ながら、人材を増やしていきたいと思っています。また今、世の中リスクリングが必要だと言っておりますが、私はスキルだけ学びなおしてもダメだと思っています。フォトショップが使えるようになって、社会がどのような絵を求めているのか理解していないと、クライアントの求める絵は描けないと思いますし、業界のマインドというものも会得していないと仕事は成り立たないと思っています。そのため、2年間かけて、技術・知識だけではなくマインドを学び、業界に求められている人材になることが大切だと思っています。周りの方はリスクリングの期間が2年間は長いとおっしゃっているのですが、マインドセットで教えられるというところに私は価値があると考えていますので、リスクリングには専門学校での2年間が必要であると考えています。

【佐々委員(特定非営利活動法人くらしとバイオプラザ21)】

3つのこと申し上げたいと思います。1つ目は、ほんとに皆さんよく働いており頭が下がります。特にこのヒアリングが、とても丁寧にされていて、これだけしっかりヒアリングをされている学校だからこそ、マインド教育なしのリスクリングだけでは不足であることや、それらの状況をわかって子供たちを送り出せる基盤を作っていたらいいなと思う、大変素晴らしいと思いました。また多くの高校との連携しており、先生方が担当している授業の他に、連携授業や営業といった業務も重なり、それがご負担にならないか少し気になりました。また、可能であれば高校へ出向くときに、学生をティーチングアシスタントとして連れて行くことをなさんと、ラーニングピラミッドの他人に教えるという事ができ、学習定着率をあげることができると思います。くらしとバイオプラザ21では今、大学でサイエンスコミュニケーションを教えおり、学生が社会や学外に触れ関わると、本当によく頑張ってくれます。またその中には対人が苦手な学校にいけない子もいるのですが、社会や外部と触れ合い、今までと違う場所で評価され、自信となり、これがきっかけで学校にいけるようになるなど、とても良い効果が得られています。そのため、ぜひ連携授業をする際には学生ティーチングアシスタントとして連れていき、学生さんにも学びを得られると良いなと考えています。3つ目は、学科同士の繋がりが少し薄まった気がしました。RJPのように、学んでみて、分からない事があって、それをまたクリアして、異業種の人とパートナーシップをおこなって、自己表現をしていくことが達成感や強みになるのではないかと思います。異分野である他学科とのかかわりは、大変かと思いますが、それらを実現するには、先ほどのヒアリングなどが効果を発揮してくるのではないかと思います。本当に頑張ってください。

【白井校長】

ありがとうございます。企業ヒアリングは、色々なご意見聞けるか本当に楽しいです。また来校いただくことも多く、非常にありがたいと思っております。専門学校は、教育の入口と出口を考え、高校の課題と企業の課題を繋ぐのが役割だと思っています。高校が持つ課題感と、企業さんが持つ課題感を、うまく繋げられないか考えながらヒアリングを行っています。勉強になることも多く、自分たちに足りない課題も見えるので、ヒアリングを続けながら、専門学校の学びや新たなカリキュラムに活用できればと考えています。また高校との連携では、可能な限り学生連れて行っています。学生が高校生に接し、高校生から見ると、「あ、こういうお兄さんお姉さんになれるんだ」と思えることも、とても良いと思っています。学生は授業もありますので、毎回参加する形にはなっていませんが、夏休みなど時間が取れる時は参加し、高校生とも触れ合ってほしいと思っています。RJPでは、RJPの授業内で各学科連携しなさいと型にはめても、なかなかうまく進まないため、もう少し柔軟に、知らぬ間に連携できているという雰囲気になければと考えています。ありがとうございます。

【松本委員(株式会社進研アド)】

進研アドの松本です。私も高専連携が非常に良い取り組みだと思って見ております。学生募集上 高専連携授業に興味を持った高校生が将来テクニカルカレッジに入るという利点と、生徒にとっても学校へのミスマッチを防ぐ取り組みとして非常に寄与するんじゃないかと考えています。昨年(株)ベネッセホールディングスさんと弊

社進研アドで、専門学校生の退学理由を深掘りし、分析したことがあります。その結果、全体の4割が勉強に関する問題で、授業についていけない、楽しくないといった学習に関する理由があり、もう1つの4割程度が、「他の分野に興味湧いた」、「この職業が合わなくなった」といった、いわゆるミスマッチが生じて退学していました。また残り2割は、友人関係、病気、経済的理由で退学していました。この高専連携授業は、このミスマッチを減らす取り組みにも繋がります。生徒にとっても非常に良い取り組みになのではないかと考えて聞いてみました。またさらに、この取り組みをもっと活性化するためにはどのようにすれば良いか考えてみたのですが、例えばこの取り組みを経由して入学した学生は、目的意識をしっかりと持っていることで入学後も非常に頑張っているといった結果や退学しないなどのエビデンスをしっかり取って周知させることにより、さらにこのような構成・連携というものが、もっと良い取り組みになっていくのではないかと考えて聞いておりました。私から以上になります。

【白井校長】

「ありがとうございます。先日も高校生をインターンシップで3日間お預かりして、情報系の各学科が1時間ずつ講義を行いました。高校生から世界観が広がったといったご意見をいただき、さらにこのようなチャンスを広げていきたいと考えています。」

【三浦委員(株式会社リクルート)】

「専門学校は、知識、技術を授けるのが本来の目的だと思いますが、高校までに得ていなければならない知識や礼儀などを身につけて入学される方が少なくなっているように思えます。その中で2年間という短い期間で、高校までの学びの補充だけではなく、さらに各分野の企業マインドを教育するとなると非常に大変で、今後どのように対策をするべきか考える必要があると思いました。またリカレントに関しまして、専門学校が昔から持っているコンテンツを企業主と結び付けて展開されると良いと思いました。その他、国を含めて進めているオープンバッジ(知識・スキル・経験のデジタル証明)に加盟している団体は、全部で88団体加入していますが、専門学校は1団体も加盟しておりません。こちらオープンバッジの加入を含め研究課題の一つにされても良いかと思いました。」

【白井校長】

「ありがとうございます。退学する学生も学習についていけない人の率や、メンタルが原因で退学している率が上がってきているように思えます。そのため、それらの対策も考えていかなければと考えております。またリカレントに関する企業との連携は、課題と考えています。教育訓練給付金も専門人材育成訓練もハローワークとの連携となっていて、個人と学校といったつながりとなっています。これらの訓練金を企業に配布し、リカレントを推進しても良いのではないかと考えています。また現在キャリアマップといったサイトで、学生の学修成果をクラウド上にあげてキャリアのオープン化を行っておりますが、あらためて知識・スキル・経験のデジタル証明、オープンバッジに関しても研究していきたいと思っております。」

【吉田委員(株式会社ビーアライブ)】

「18歳人口の減少がやってくる中で、留学生を受け入れていくということは、産業界にとってもとても重要なことだと思っています。その中で、留学生にしっかりとスキルをつけて日本の企業に送り出していくことは専門学校においても重要なことだと考えているので、今後どのように展開されていくのか注目をしています。また、専門人材の育成についても専門学校の役割として、とても有効に働いていくのではないかと考えています。18歳の日本人学生の育成も、とても大切だと考えていますが、違う文化を持った人たち、もしくは違う経歴を持った人たちを受け入れることによって、高校から入ってきた学生たちにも、いい影響を与える流れが、できれば良いなと考えています。最後に企業へのヒアリングに関しまして、社会が求めているスキルや人材を輩出するためには、その企業が今欲しいと思ってる人材の1歩、2歩、を考えながらカリキュラムを作っていくかなければいけないことなので非常に大変なことだと思っています。企業、産業界が求める人材を育成していくことが専門学校の役割の一つであると思っておりますので、企業ヒアリングをもっと広げていっていただきたいと考えております。」

【白井校長】

「ありがとうございます。留学生を入学させることは、とても重要だと思っています。日本人人口も減る中、どの分野も労働者不足となっています。そのため日本人だけではなく留学生にも力入れ教育をしっかり行っていきたくと考えています。また、吉田委員がおっしゃった通り、色々な方と接することは、若い学生にとってとても大切だと思っています。日本人だけの狭いコミュニティだけではなく多様性が重要で、50年後には東京もニューヨークのように国籍は日本だけでも多くの人がいて当たり前な社会になってくるのではないかと考えています。その中で東京テクニカルカレッジを選んで入学してきてくださった留学生の皆さんには、しっかりと知識と技術、そしてマインドを身につけて卒業させたいと思います。企業へのヒアリングは、勉強になりますし、どのような学びカリキュラムを作るかが、とても重要だと思っていますので、企業ヒアリングは是非とも続けていきたいと考えています。」

【渡邊委員長(IT Book テクノロジー株式会社)】

「退学率に関しまして、退学率を減らすための対策をした後と前で、目標数値を変えてもよいのではないかと思います。数値を守るために無理をして、しわ寄せが起き、問題が発生する可能性もあるため、一律何%といった数値に固定するのではなく、時代の流れや状況によって、数値を変更してもよいのではないかと考えました。またIoT+AI科のヒーローズリーグの動画をみた感想ですが、IoTとは、色々なジャンルの先端技術を結びつけることができる技術だと思っています。その技術を入学して6か月で、これらの作品を作ったということが、素晴らしいと思っています。技術的には、感嘆するほど高度な技術ではないのですが、アイデアが素晴らしいと思いました。このアイデアを活かして、他学科の学生と共有するとRJP活性化に繋がるのではないかと考えてい

ます。このような、学科を超えた活動はされていますでしょうか。」

【白井校長】

「学校に入って、プログラミングも何もわからない状況から、制御やセンサーを理解し、組み合わせてみるということが、半年でできるってすごいことだと思っています。また教員が引率して、色々な展示会に参加しているのですが、学生はとても生き生きしています。学科を超えた活動ができればと考えてはいるのですが、無理に教員が企画するのではなく、学生から自然発生してコラボレーションができればと思っています。

また退学率に関して、無理してはいけないとは思っているのですが、やはりそこは頑張っ、少しでも減らしていきたいといった努力はしなければならぬと考えています。東京テクニカルカレッジを選んで、入ってきた学生が辞めてしまうのは、心苦しいし、自分のたちの力のなさを感じます。非常に難しい課題ですが、少しでも努力して退学率を減らしていければと考えています。ありがとうございます。

7. 閉会の辞

【渡邊委員長】

「ありがとうございました。現在までの説明をもって評価をしたいと思います。教育的視点からの改善アプローチでありますし、これまでの取り組みを拝見し、テクニカルカレッジらしい改善への取り組みだと思えますが、委員の皆さんはいかがでしょう。」

【全委員】

全員一致で賛同

【渡邊委員長】

「ありがとうございます。今年度の取り組みを適切な活動であることを評価したいと思います。これにて 会議は終了しますが、今後の活動についての改善努力についても計画したものがどのように進捗してきているのか、またその取り組みを含めこれからも公開をお願いしたいと思います。スムーズな議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。これにて閉会します。」

【井坂副校長】

「委員の皆様、長い時間ありがとうございました。議長もどうもありがとうございました。本会議を持ちまして本日の学校関係者評価委員会の会議は終了となります。

次回の学校関係者評価委員会は2024年3月2日土曜日となります。当日はテラホールにおきまして卒業研究および卒業制作・RJP の展示および成果発表会を行う予定です。また同日夕刻にて同窓生の集いを行う予定です。卒業生の皆様には是非ご参加いただければと思います。本日は、お忙しい中、ご出席賜りまして、熱く御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上

議事録署名人

印

印